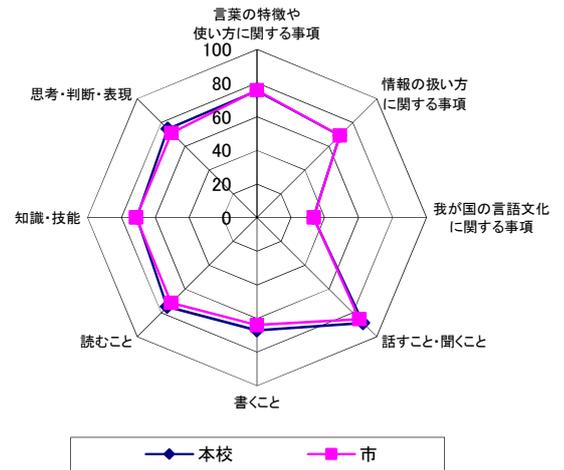


宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	75.4	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	69.0	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	33.3	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	88.5	85.5	86.5
	書くこと	67.1	63.9	65.8
	読むこと	75.0	71.6	69.5
観点別	知識・技能	71.0	71.3	72.9
	思考・判断・表現	74.5	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

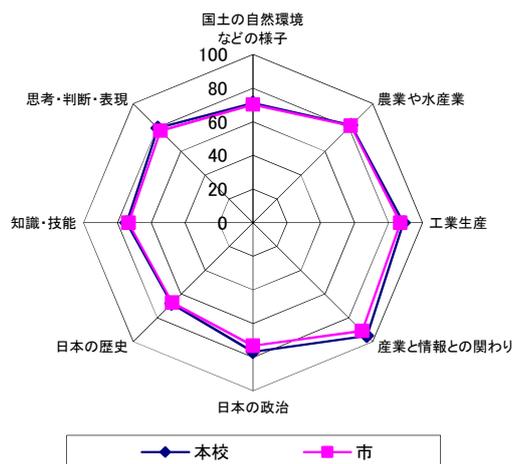
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●漢字の読み・書きに関して、第6学年に配当されている漢字を正しく読む設問において、市の平均と同程度であるが、第5学年に配当されている漢字を正しく書く設問では、「防災」という漢字で4.8ポイント下回り、「責任」という漢字で市の平均正答率を8.4ポイント下回っている。 ○送り仮名のつく訓読みの設問は4.5ポイント上回った。 ●文と文との接続の関係を理解しているか問われる設問では、市の平均正答率を2ポイント上回っているが、45.2%と低い。 ○敬語について理解し、正しく使っているかの設問は、市の平均正答率を5.5ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字スキルを使って間違えやすい漢字などポイントを押さえた上で、自主学習での漢字練習の励行やミニテスト、50問テストなどを通して確認することを継続する。また、より多くの熟語に触れさせることで生活の中で使えるようにさせていく。 ・敬語については、授業で学んだことを復習すると共に、場面に応じた正しい使い方が身に付くよう日頃から敬語を使う指導を心がける。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○原因と結果など情報と情報の関係について理解しているかの設問では、市平均正答率とほぼ同じであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料から必要な情報を取り出す力は今後より多くの場面で求められる。国語に限らず、日常の多くの場面で情報との接し方に注目させていく。 また、その中で児童同士でその情報について整理し、議論する機会を丁寧に扱い、正しい判断ができるようにしていく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○語句の由来に関心を持ち、和語、漢語、外来語について理解しているかに関する設問では、市の平均正答率とほぼ同じであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、文字の歴史を学ぶ社会科や書写などとも関連させながら、折に触れ、漢字や語句に関する話題を取り上げ、言語への関心を高めていく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○インタビューの内容を聞き取る設問では、全ての設問において市の平均正答率を上回った。 ○特に、意図に応じて質問を工夫する問題では2.4ポイント、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えて記述する問題では5.2ポイントと市の平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、話を聞く際には、内容を整理して自分の考えと比較させながら聞くよう指導を続けていく。 ・普段の授業や児童会活動を通して、自分の考えを簡潔にまとめて表現する機会を増やしていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を書くことに関する設問では、目的や意図に応じて、書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかの設問では、市の平均正答率を12.1ポイントと大きく上回った。また、目的に応じて文章を簡単にする問題では6ポイントと市の平均正答率を上回った。 ●2段構成で、文章全体の構成や展開を考えているかの設問では、市の平均正答率を5.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多年に渡る毎週末の日記指導や授業の振り返りを継続してきたことにより、普段から抵抗なく文章を書く力が伸びている。今後も条件作文や論理的な意見文、読み手を意識した提案文などを書く機会を丁寧に扱い、一人一人に応じた支援を行うことで更に書く力を高めていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○読むことに関する設問では、全ての設問において、市の平均正答率を上回った。特に、物語の全体像を具体的に想像する問題では5.7ポイントと平均を上回った。また、説明文の内容を捉える問題の中でも、叙述を基に内容を捉える問題では10.1ポイントと平均を大きく上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、朝の読書の時間や図書委員会の企画等を活用して、児童が読む楽しさを味わえるよう指導していく。 ・物語文では、描写から心情を読み取る際に、児童同士の捉え方を交流させ、より深い理解につなげたい。 ・説明文では、正しく内容を理解できるよう、段落の役割や文章構成に着目して読む等の説明文読解のスキルを身に付けさせていく。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	71.1	70.3	66.4
	農業や水産業	81.9	81.6	75.3
	工業生産	88.8	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	95.2	91.0	81.3
	日本の政治	76.8	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	67.9	67.4	68.5
	知識・技能	74.5	73.5	72.5
	思考・判断・表現	79.5	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

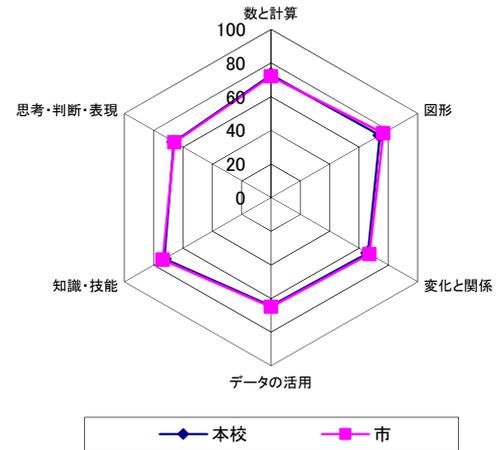
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○世界の中の国土の設問では、赤道や季節風の理解を問う内容で市の平均を上回った。 ●わたしたちの生活と環境の設問では、市の平均を若干下回った。 ●世界の中の国土の設問では、海洋名を問う内容で市の平均を下回った。	・地図帳や地球儀等を用いて、日本や海洋名等の知識を習得するとともに、日本とつながりの深い国については、正しく国名や国旗を理解するなどして、日本と外国とのつながりに関心をもてるように指導していく。
農業や水産業	○日本の水揚げされた魚の出荷作業における工夫について、資料を読み取る設問では、95.2%と高い正答率であった。資料を読み取る力は身に付いているといえる。 ○米の生産が盛んな地域や品種改良について理解しているかの設問では、いずれも市の平均正答率以上だった。	・資料から判断し、読み取る力は定着している。社会的な思考力や表現力を一層高めていくために、資料から読み取ったことを文章にまとめたり、自分なりの考えを表現したりする活動を授業で増やしていく。
工業生産	○自動車の製造工程を問う設問、日本の貿易の変化について資料をもとに表現する設問で、市の平均正答率を上回っており、よく理解できている。 ●安全性の高い自動車づくりについて資料をもとに考える設問では、市の平均正答率を下回っている。	・写真資料やグラフ、表などの資料を、比較・関連・統合させながら表現する学習を授業を通して繰り返し行っていくことで、資料をもとに考える力をつけていく。
産業と情報との関わり	○「情報」に関する設問では、いずれの設問も、市の平均正答率を上回っていた。特に、情報の発信と受信の注意点について考える設問は、96.4%という高い正答率であり、情報リテラシーへの理解やメディアへの関心が高いことが分かる。	・調べ学習などを行う際、インターネットを使用する上で必要となる情報リテラシーについて、繰り返し指導を行い、正答率が100%となるよう、指導を継続していく。
日本の政治	○法律ができるまでの流れについて資料をもとに読み取る設問、租税の役割についての設問のいずれも、市の平均正答率を上回っており、よく理解できている。 ●日本国憲法に関する設問では、市の平均正答率を下回っている。	・継続して時事問題や政治について学習に取り上げていくことで、社会に関する児童の興味・関心を高めていくようにする。 ・政治に関する最近のニュースを話題にするなど、身近な具体例を交えながら関心を高める指導を行うようにする。 ・歴史の授業でも触れながら、憲法の大切さや役割について理解を深めていく。
日本の歴史	○各時代に関する設問において、多くの設問で市の平均正答率を上回っている。 ●弥生時代について設問では、市の平均正答率を下回った。 ●織田信長の業績に関する理解を問う設問では、市の平均正答率より9.7ポイント下回っており、課題が見られる。	・各時代における政治や文化について各時代背景への理解を深めたり、現在との繋がりを考えたりするような学習を取り入れ、全ての児童が歴史に親しみをもてるようにする。 ・資料集等にある多彩な資料や歴史上のエピソードを紹介したり、一人一台端末を使って歴史に関する動画の説明を視聴したりするなど、歴史への興味・関心を高めるようにする。 ・人物と業績を整理しながらまとめる等の活動を取り入れ、どんなことをした人物なのかしっかり理解させる。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.9	72.1	74.6
	図形	74.2	76.5	76.1
	変化と関係	66.0	67.1	59.7
	データの活用	64.5	65.0	64.5
観点別	知識・技能	72.7	73.8	74.7
	思考・判断・表現	66.3	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

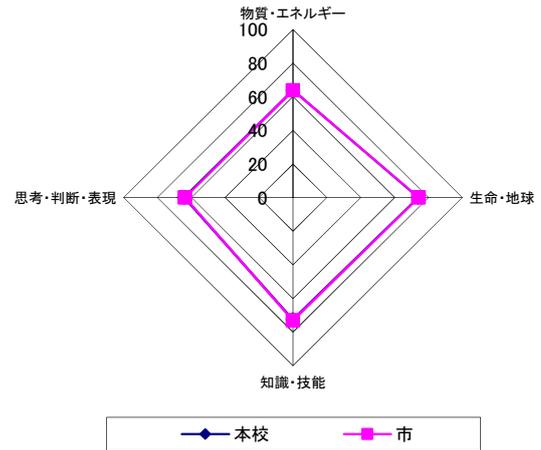
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率が72.9%と市の平均正答率を0.8ポイントわずかに上回っており、小数の基本的な計算方法が定着しつつあるといえる。 ●小数の計算が定着している一方、分数の計算が苦手な側面が見られる。	・基本的な計算問題だけでなく、応用問題や文章問題等にも取り組む時間を確保し、知識の定着を図る。 ・分数の計算においては、他の領域でもでてくるため、定期的な復習を行い、定着できるようにする。割合の学習における基準値のイメージができるように図や数直線などを用いて復習に取り組む。
図形	●平均正答率が74.2%と市の平均正答率を2.3ポイント下回っており、体積の求め方は理解しているが、平行四辺形や円の面積の求め方が不十分だと考えられる。	・それぞれの図形や立体の性質を比較してまとめる活動を行い、定義についてさらに定着できるようにし、面積の求め方をおさえる。 ・複雑な体積の求め方の応用問題に取り組むことで、さらなる理解の定着を図る。
変化と関係	●平均正答率が66.0%と市の平均正答率を1.1ポイント下回っており、速さの求め方は理解しているが、単位量当たりの大きさの求め方に課題が見られる。	・割合や単位量当たりの大きさ・速さは5年生の学習内容であるため、繰り返し復習の機会を設ける。 ・割合は、6年生での「データの活用」においても使われるため、その際に復習ができるようにする。 ・単位量当たりを求める問題においてもイメージが持てるよう数直線などを用いた求め方の復習を行う。
データの活用	●平均正答率が64.5%と市の平均正答率を0.5ポイント下回っている。ドットプロットの読み取りの理解に課題が見られる。度数分布表作成の理解はしつつある。	・6年間で学習したグラフの特徴を整理したり、目的に合わせてグラフを選んだりする活動を取り入れ、グラフから適切に情報を読み取れるようにする。 ・ドットプロットの読み方、また、それぞれの値の意味を復習する。

宇都宮市立戸祭小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	63.9	63.8	61.6
	生命・地球	73.9	74.1	73.3
観点別	知識・技能	72.6	73.0	71.3
	思考・判断・表現	64.2	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○「電流のはたらき」に関して、「2つの実験結果の違いから電磁石の力の強さを変える要因を指摘する」という思考・判断・表現の選択式問題については、市の正答率を7.8ポイント上回った。</p> <p>○「物の燃え方」に関して、「木を缶の中で効率よく燃やす方法を指摘する」という思考・判断・表現の選択式問題については、市の正答率を5.7ポイント上回った。</p> <p>●「ふりこのきまり」に関して、「ふりこの周期を理解し、実験の結果を推測する」という思考・判断・表現の短答式問題については、市の正答率を6.5ポイント下回った。</p> <p>●「水溶液の性質」に関して、「蒸発させたときに何も残らなかった水溶液には気体が溶けている」ことを問う知識・理解の短答式問題については、市の正答率を9.5ポイント下回った。</p>	<p>・「ふりこの長さ」と周期」では、実験データの数値をグラフ化したり、動画の等倍・スロー再生を用いて可視化したりして、変化の傾向を量的に捉えさせるようにする。</p> <p>・「水溶液の性質」の実験では、においを確認したり溶けている物の重さを意識させたりするなど、五感を通して実感させるようにする。</p> <p>・短答式の解答に課題が見られるので、現象の理由や規則性を短文で記述する機会を増やし、概念の定着を図り、言語力を養っていく。</p>
生命・地球	<p>○「生物とかんきょう」に関して、「食物連鎖」についてを問う知識・理解の短答式問題では、市の正答率を8.7ポイント上回った。また、「環境の変化による生物同士の関わり方の影響を推察する」という思考・判断・表現の選択式問題では、市の正答率を7.8ポイント上回った。</p> <p>●「植物のつくりとはたらき」に関して、「ヨウ素デンプン反応」についてを問う知識・理解の短答式問題では、市の正答率を7.8ポイント下回った。</p> <p>●「月と太陽」に関して、「月、太陽、地球の位置関係と月の見える形」についてを問う知識・理解の選択式問題については、市の正答率を8.2ポイント下回った。</p>	<p>・「自然とかんきょう」に関しては、実験や観察を通して、</p> <p>・ボールとライトを用いたモデル実験やデジタル教材等を活用し、「地上からの視点」と「宇宙からの視点」の両面から視覚的に捉えさせ、月の満ち欠けの仕組みや月の形と太陽の位置関係について、理解を深めさせるようにする。</p> <p>・ヨウ素デンプン反応の意味と手順を再確認し、対照実験を適切に行えるようにする。</p>

宇都宮市立戸祭小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<p>・自ら考え、伝え合い、理解し実践する児童の育成</p>	<p>・算数を中心に、既習事項を生かして考える児童、主体的に課題を追究し学び合う児童を目指し、児童が納得と達成感を得る授業を展開・工夫したり、教師のコーディネート力を磨いたりする研究を前年度から継続して進めている。</p> <p>・授業の展開においては、宇都宮モデルを活用し、特に「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識しながら、児童が自分の考えをもち、学び合いを通して考えを深める方法や次につなげるための振り返りの方法などについて研究している。</p> <p>・児童自らが主体的に学習に取り組めるように、「自主学習の進め方」を作成・配付したり、「家庭学習強化週間」を設けたりしている。</p>	<p>・宇都宮市学習内容定着度調査の結果については、どの教科も概ね市の平均と同程度であった。</p> <p>・「勉強が好き」「授業の始まりに席に着いている」「話を最後まできちんと聞いている」「授業を集中して受けている」「授業が分かる」「学習が面白い・楽しい」「分かるとうれしい」の肯定割合については、概ね85%を上回っており、落ち着いた態度で前向きに学習に取り組んでいることがうかがえる。</p> <p>・「宿題をきちんとやる」の肯定割合は、どの学年も80%以上で、特に下学年では90%を超えているが、「その日のうちに復習する」「計画的に家庭学習を行う」「間違えた問題はもう一度やり直す」の肯定割合は、40～70%で、全体的に低い。</p>
<p>・読書時間の確保と習慣化の構築</p>	<p>・朝の読書や読み聞かせによる本に触れる場を引き続き設けたり、学校図書館司書や委員会活動による本に親しむ機会を確保したりしている。</p> <p>・「チャレンジブック」を設定したり、週末の親子読書の機会を設けたりしている。</p> <p>・宇都宮市の施策で4年生以上に導入されている電子図書館の「読み放題パック」を児童に推奨している。</p>	<p>・「いろいろな本を読むことは楽しいですか」の学校全体の肯定割合は約83%で、市の平均とほぼ同程度である。そのうち、低学年は90%を超えている。</p> <p>・「普段1日にどれくらい本を読んでいますか」の設問に対して、時間を問わず、読書をしている児童の割合は、学校全体で、平日が約80%、休日が約75%となっており、概ね市の平均よりも上回っているが、学年が上がるにつれ、読書していない児童の割合が増加傾向にある。</p>

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

<p>・国・県・市の学力調査を見ると、ほとんどの教科で市の平均と同程度か、3～5ポイント程度上回っており、知識・技能においても、思考・判断・表現においても、学力の定着が見られた。他方、「話し合いに進んで参加している」「根拠や理由をあげて話す」「いろいろな視点や立場から考える」「比較する」の肯定割合は約7～8割程度で、学年が上がるほど肯定割合が低くなる傾向にある。「主体的・対話的な深い学び」ができるように、日々の授業を振り返り、フィードバックしながら授業の改善を進めていく。</p> <p>・令和6年度からは「伝え方のさし」という相手に分かりやすく伝える手立ての資料を作成し、全校で指導しているところである。引き続き、授業において、自分の考えをもつための時間を確保し、あわせてその根拠となるものも明示し、相手に自分の考えをしっかりと伝えられるよう指導していく。また、児童が納得や達成感を得られるように、宇都宮モデルを活用し、「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した分かりやすくなるような授業展開や板書計画を研究し、「分かる授業」を目指していく。</p> <p>・家庭学習については、「自主学習のすすめ」を作成、配付したり、年2回家庭学習強化週間を設けたりするなど、引き続き指導を行っていく。</p>
